

第71回 定期演奏会

上越交響楽団



PROGRAM

ベートーヴェン：「フィデリオ」序曲
ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲第1番
ドヴォルザーク：「新世界より」
交響曲第9番

2013年9月16日(月・祝)

開場：13:30 開演：14:00

上越文化会館大ホール

- 主催：上越交響楽団
- 後援：上越市教育委員会



■出演者

コンサートマスター
三溝 健一

第1ヴァイオリン

泉 紀子
上野 圭子
加藤 由香里
小菅 宏造
坂口 和代
田村 さやか
橋本 士郎
平原 良晃
横田 幸恵
岩田 貴守＊
近藤 将弘＊
佐藤 理果＊
田中 陽子＊

第2ヴァイオリン

青木 由美子
小坂 結
杉山 晴生
洲崎 匡
高橋 亜美
高松 理恵
田中 教生
藤原 満
水谷 怜
吉村 理
八國生 紗也乃＊

ヴィオラ

清水 哉子
惣塚 弘
古海 法雲
渡辺 みほ
大庫 るい＊
佐藤 充＊
鈴木 なつみ＊
宮入 徹＊

チェロ

稲井 進
上野 敦子
大坪 美樹
笠野 恭子
加藤 史子
佐藤 慎悟
高橋 文子
水澤 由紀

コントラバス

秋山 雅央
吉崎 須賀子
渡辺 光
松原 直之＊
山崎 康正＊

フルート

齊藤 孝久
福田 幸久
丸山 恵理
森澤 拓

オーボエ

羽賀 純子
橋本 直子
皆川 正弘
皆川 未央

クラリネット

伊藤 志帆
齊藤 直美
鈴木 和久
富田 洋加

ファゴット

福嶋 梓
宮口 弘明

ホルン

笹川 修一
島岡 美沙
須田 孝義
森 真人
綿貫 英紀

トランペット

菅野 徳嗣
中原 美千佳
水澤 学

トロンボーン

笠野 光雄
松田 彰英
中島 康孝＊

テューバ

吉越 篤＊

パーカッション

稲田 善智
中原 健二

＊は賛助出演ならびに団友

楽団紹介

1972年(昭和47年)結成。毎年2回開催している定期演奏会、各方面からの依頼演奏や行事への参加を通じて広く市民に愛されています。

上越市を中心に県内各地から音楽を愛する仲間が集い、質と達成度の高い音楽を表現すべく、様々な楽曲に挑戦しています。

2006年「新しい上越市民の歌とベートーヴェン『第九』を歌う集い」にて、上越市出身の指揮者、汐澤安彦氏と共演。
2010年、上越文化会館30周年記念事業「くびき野の歌」に参加、好評を博しました。

現在は指揮者に上越教育大学の長谷川正規氏、コンサートマスターに三溝健一氏を迎え、充実した活動を展開しています。



■次回演奏会のご案内■

第72回定期演奏会

日時：2014年3月16日(日) 14:00開演

会場：上越文化会館 大ホール

曲目：ラヴェル／古風なメヌエット
ラヴェル／亡き王女のためのパヴァーヌ
リスト／交響詩「前奏曲」
ベートーヴェン／交響曲第5番「運命」

■団員募集のご案内■

上越交響楽団では団員を募集しております。
通常オーケストラで演奏される楽器であれば、どなたでも入団できます。
素敵で愉快的な仲間達と素晴らしい音楽を創りましょう。
団員一同心より歓迎いたします。

連絡先 Mail: mako2034@joetsu.ne.jp
Tel: 090-1606-1254(茨木)
ホームページ <http://www.5a.biglobe.ne.jp/~jsovn/>

ごあいさつ	上越交響楽団 団長 古海法雲
本日は上越交響楽団の定期演奏会にお越し下さいまして真に有難うございます。 私達の演奏会には出来るだけ皆様に親しまれている曲や、ちょっと冒険的な曲をと心がけています。本日の演奏会では地元上越市出身で地元在住のヴァイオリニスト牧田由起さんとの共演が実現しました。7月半ばの初顔合わせの時、我が団員達は驚きと感動で一杯になるのに、さほど時間はかかりませんでした。「こんな名手と共演出来るなんて」と。実に幸せな至福のひと時がアツと言う間に過ぎ、早くも次の手合せが待ち遠しいほどです。今日はきっと皆様にも喜んでいただけたと思います。 ブルッフのヴァイオリン協奏曲は、メンデルスゾーンやベートーヴェンの協奏曲程有名ではないですが、なかなかどうして大変な名曲です。それだけにオケとソロの呼吸を合わせるのが大変です。超有名なドヴォルザークの「新世界」と共にご堪能下さい。	

指揮者	Hasegawa Masanori 長谷川 正規
東京藝術大学音楽学部器楽科(チューバ専攻)卒業。学部在学中に安宅賞を受賞。同大学大学院音楽研究科修士課程修了。ソリストとして、松尾葉子指揮藝大フィルハーモニア、故岩城宏之指揮オーケストラアンサンブル・金沢とR.V.ウィリアムスのチューバ協奏曲を共演した。チューバ奏者として管弦楽・吹奏楽・室内楽の領域で活動する傍ら、近年指揮の機会も増えてきており、新潟県・上越文化会館30周年記念創作音楽劇「くびき野の歌」、新潟市北区文化会館開館記念オリジナルミュージカル「春のホタル」などの指揮を担当した。また新潟市・北区フィルハーモニー管弦楽団音楽監督、上越交響楽団指揮者を務めるほか、有志による「ハセガワ・キネン・オーケストラ」ではグラズノフやチャイコフスキーなどロシアの作品を軸にしたレパートリーを展開している。これまでにチューバを稲川榮一氏に師事。現在、上越教育大学大学院学校教育研究科専任講師。	

コンサートマスター	Samizo Ken-ichi 三溝 健一
長野県松本市にて4歳よりヴァイオリンを始め、正岡紘子、天満敦子、山岡耕彦の各氏にヴァイオリンを、東京音楽大学にて井上將興氏にヴァイオリン及び室内楽を師事する。また、肥沼きよ、竹内邦光、丸山嘉夫、松本紀久雄、汐澤安彦の各氏にピアノ、ソルフェージュ、音楽学、指揮法を師事する。大学在学中から、ソロ、室内楽、オーケストラ、オペラ等、幅広い分野で演奏活動を行う。殊に室内楽では「ENSEMBLE“藝弦”」(弦楽合奏)と「室内楽“EAU”」(ピアノアンサンブル)を中心に研鑽を積み、現在は「音泉室内合奏団」を主軸に活動を展開、編曲も多数手掛けている。また、関東～信越各地の市民・学生オーケストラにおいて指導者として活動の発展に尽力、初心者から専門課程の学生及び演奏家の個人レッスンや室内楽のグループ指導など広く後進の育成にもあたっている。	

足立シティオーケストラ／常任コンサートマスター、副指揮者。松本交響楽団／客演コンサートマスター、副指揮者。上越交響楽団、柏崎フィルハーモニー管弦楽団、他／客演コンサートマスター、トレーナー。音泉室内合奏団／ソロ・コンサートマスター、音楽監督。池袋音楽学院講師。“Gruppo Violini”主任講師。

ヴァイオリン	Yuki Makita 牧田 由起
4歳よりヴァイオリンを始める。 全日本学生音楽コンクールヴァイオリン部門 東京大会小学校の部第3位、東京大会中学校の部第2位。 第10回日本モーツァルト音楽コンクール奨励賞。 国際モーツァルトコンクール派遣者選考演奏会2001優勝。 これまでに、高橋良之、重本佳美、故 久保田良作、勅使河原真実、辰巳明子の各氏に師事。大阪センチュリー交響楽団と共演。 新潟市、上越市にてリサイタルを開催する他、各地でのコンサートに出演。 桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部を卒業。 現在、新潟県上越市に在住し、演奏活動を行っている。 二葉楽器ヴァイオリン教室特別講師。 新潟大学教育学部非常勤講師。	



プログラム&曲目解説

■ベートーヴェン：歌劇「フィデリオ」序曲 作品72b

「フィデリオ」はベートーヴェンの唯一の歌劇であり、レオノーレとその夫フロレスタンとの熱烈な愛をテーマとしたもので、正義、勇氣、崇高、愛情、勝利の達成と言ったものがミックスされた一大ドラマです。1805年の初演の際に書かれた序曲が「レオノーレ第2番」、次の1806年の上演のときに「レオノーレ第3番」、そして1814年の改訂上演に書かれたのがこの「フィデリオ」序曲です。他に「レオノーレ第1番」もありますが、没後に発見されたもので使われることはありませんでした。納得するまで序曲の改訂を繰り返したことから、この歌劇に対する思い入れの強さが伺えます。

曲はレオノーレの意思と愛情の強さを示すかのような力強い旋律から始まり、ホルンとクラリネットによるやわらかなメロディーが奏されます。主部はソナタ形式で管楽器による第1主題と弦楽器による第2主題とが軸になり展開します。そして壮大なコーダに入り勝利に向かって突き進むように力強く曲を閉じます。

■ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲 第1番 ト短調 作品26

ブルッフはシューマンなど重要な作曲家と接点があったことから、19世紀後半のドイツ音楽史において注目されるべき存在であるにも係わらず、残念ながらヴァイオリン協奏曲以外の創作はあまり知られていません。

この協奏曲が作曲されたのは彼がコブレンツの劇場の音楽監督時代で、クララ・シューマンを通して大ヴァイオリニストのヨアヒムに紹介されたことがきっかけになっています。第1稿の初演は1866年でしたが、思ったほどの評価が得られませんでした。ブルッフはヨアヒムの助言を求め改訂に取り組みます。ヨアヒムからはメンデルスゾーンの協奏曲のように第1楽章と第2楽章を連続させること、さらにヴァイオリンの表現に適したフレージングについても助言がなされました。そして現在の形である改訂稿が完成し1867年にヨアヒムの独奏により初演されました。その後、サラサーテなどの有名なヴァイオリニストに採り上げられたこともあり、広く諸外国で演奏され現在まで愛好の度を増えています。

- 第1楽章 前奏曲、アレグロ・モデラート ト短調 4/4拍子
慣習によるソナタ形式の第1楽章を配置する代わりに、即興性の高い自由な形式を取り入れ「前奏曲」なる表題を与えました。ティンパニのトレモロに木管楽器が答えて始まり、独奏による自由な表現が登場します。そして分散和音のテーマによる力強い主題が提示され自由に展開します。楽章の終わりには独奏が音を長く延ばし第2楽章の前触れを提示しつつ連続して次の楽章に移行します。
- 第2楽章 アダージョ 変ホ長調 3/8拍子
ブルッフ独特の美しい旋律があふれる楽章です。ヴァイオリンの歌う第1主題に始まり、第2主題は独奏のパスセージを背景に木管楽器によって歌われます。
- 第3楽章 終曲、アレグロ・エネルジコ ト長調 2/2拍子
主題を予示するオーケストラの導入に始まり、独奏の重音奏法によるハンガリー風の熱狂的な主題が現れます。オーケストラが和音を刻む中で、主要動機が繰り返し奏され次第に高揚し、独奏によって晴れやかに主題が提示され曲を締めくります。

■ 休憩 ■

■ドヴォルザーク：交響曲第9番 ホ短調 作品95「新世界より」

ドヴォルザークは1841年にボヘミア(現チェコ)の小さな村の肉屋兼宿屋に生まれました。家の商売柄から宿泊している旅の音楽師たちと接することが多く、終始音楽を耳にして過ごしており、いつしか音楽家を目指すようになります。家業を継がせるつもりだった父の反対があったものの、自ら音楽学校に進み作曲を学びます。32歳のときにはボヘミア民族音楽に基づくカンタータの創作が成功し作曲家として認められ、ブラームスをはじめとした一流の音楽家たちから厚い友情を寄せられ、ヨーロッパ中に名声がとどろくに至りました。

その勢いで、彼は音楽文化の発展目覚しいニューヨークに設立されたナショナル音楽院の院長に招待されます。初めはためらっていたものの待遇の良さに引かれ1892年に就任しましたが、ボヘミアの田舎者にとって都会生活は神経を疲れさせ、望郷の念を抑えることができなくなりました。彼は契約の満了する1894年に帰国を考えましたが、強く慰留され翌年まで滞在することになりました。

音楽院には多くの黒人学生が在学しており、彼らと知り合うことでアメリカ・インディアン の音楽に接するようになりました。これらの音楽の特徴が祖国ボヘミア民族音楽に似ていたことから、ドヴォルザークに新たなインスピレーションを与え、弦楽四重奏「アメリカ」やチェロ協奏曲などの名作が生まれます。交響曲「新世界より」もそのひとつであり、この副題と曲の華やかさや親しみやすさが当時の聴衆の愛国心に訴えたことにより大好評を受けました。今日でも最も親しまれているクラシック音楽のひとつであることは、ご存知の通りです。

- 第1楽章 アダージョーアレグロ・モルト ホ短調 4/8拍子ー2/4拍子
序奏付のソナタ形式であり、序奏部はアメリカ大陸の夜明けの情景を連想させます。主部に現れる3つの主題は、いずれもアメリカでの経験に基づく民族色の濃い音楽です。
- 第2楽章 ラルゴ 変ニ長調 4/4拍子
イングリッシュ・ホルンの奏でる美しい旋律によって名高い楽章です。対照的に中間部に示される哀愁を帯びた旋律は望郷の念を現しています。
- 第3楽章 スケルツォ モルト・ヴィヴァーチェ ホ短調 3/4拍子
ボヘミアの気まぐれなジプシー音楽に基づいた、悲哀を現す旋律と喜びを現すリズムの2つの要素が独特な方法で融合したユニークな楽章です。
- 第4楽章 アレグロ・コン・フォーコ ホ短調 4/4拍子
自由なソナタ形式によるフィナーレです。円熟した作曲技法により、これまでの楽章で用いられた主題や動機を巧妙に結合し展開した音楽で、起伏に富んだ終結部により華麗に全曲を締めくります。